

〔「地域情報化大賞」奨励賞受賞〕

**教育の情報化を基盤とした
誇りと夢と元気を生み出す人づくり町づくり
(熊本県高森町教育委員会)**

〔町の概要〕

高森町は、熊本県の最東端に位置し、人口6,958人(平成26年10月末現在)、総面積174.90平方キロメートルを有する農山村地域で、小学校2校(児童数約300人)と中学校2校(生徒数約160人)があります。現在、観光立町と農業振興を柱とした町づくりに取り組むほか、町の情報化を町づくりの基盤として推進しており、平成25年度から町内全世帯を対象にした光ファイバー網の情報基盤整備事業を行い、平成27年度からは町民向けケーブルテレビ「たかもりPOINTチャンネル」を開局する。

学 校 名	生 徒 数	学級数(内特別支援)
高森東小学校	37	7(1)
高森中央小学校	260	16(4)
高森東中学校	19	4(1)
高森中学校	148	8(2)
町内合計	464	35(8)

表1 学校の概要(平成26年5月1日現在)

〔事業概要〕

高森町では、町のICT政策を全ての町民にわかりやすく共有するため、町民の関心と必要性の高い教育分野からICT政策を推進している。

高森町教育委員会では、平成24年度に「高森に誇りを持ち、夢を抱き、元気の出る教育」をスローガンに高森町新教育プランを策定し、「町をあげて」、「風に乗る」、「国や県の動向を見据える」の3点を戦略に、教育改革に取り組んでいる。重点施策は、「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育・ふるさと教育」であり、ねらいを「確かな学力と豊かな心の醸成」、「地域とともにある学校づくり」、「教育環境の整備」、「高森町教育研究会の活性化」としている。特に、「教育環境の整備」にICT環境の整備を位置づけ、教育の情報化を基盤とした誇りと夢と元気を生み出す人づくり町づくりに取り組んでいる。平成24年度前半に町単独予算により全普通教室に電子黒板を整備し、平成24年度後半には、企業の実証研究によりタブレットPCを整備するなど、段階的に環境整備を進めている。また、平成25年度には熊本県教育委員会より提供されたテレビ会議システムを活用し、町内の学校同士を繋いだ遠隔交流授業を実施している。平成26年度には新たなタブレットPCを追加整備し、ほぼ1人1台の環境となり、全国でも有数のICT環境を実現した。

さらに、教育長をはじめとする教育委員会事務局、町内4校の校長及び情報担当者で構成する教育CIO会議を設置して、いち早く国や県の動向やICT機器等の情報を収集し、町内挙げての教育の情報化に関する企画や情報共有を行っている。



図1 高森町新教育プラン概要図

【コラム】

○課題1「教育の質の向上」

- ① 児童生徒の学力向上のため、ICT活用を契機とした教育の質の向上に取り組んだ。町内4小中学校の共通の研究テーマを「ICTの活用による授業改善」とし、授業研究会を開催してきた。また、4校合同の授業研究会を開催する際には、有識者として大学教授や熊本県教育庁指導主事に何度もお越しいただき、指導・助言をいただきながら、授業改善を行ってきた。

取組から3年目を迎え、効果は確実に現れ始めている。熊本県学力調査、全国学力学習状況調査では共に明らかな向上が見られた。特に全国学力学習状況調査における中学3年生はICT導入以前に実施した小学6年生時と比較すると大幅な学力向上が見られた。

- ② 子どもたちがこれからの社会を生き抜く上で必要不可欠となるのが情報活用能力や情報モラルといった21世紀型スキルである。児童生徒のICT活用を推進する中で21世紀型スキルを身につけ、生きる力を育てている。また、情報モラルについては、大手ソーシャルゲーム会社からSNSの使い方等について講演いただき、情報モラルの向上を図っている。

児童生徒の情報活用能力の育成については、その成果として「平成25年度くまもとICTコンテスト」において優秀な成績を修めることができた。マルチメディア部門小学校の部最優秀賞に高森中央小学校の児童、中学校の部最優秀賞に高森東中学校の生徒が受賞した。また、NEXT夢コンテスト部門においては、応募総数約1900点の中から高森東小学校の児童がNEXT大賞という最優秀賞を受賞するなど、各部門の最優秀賞を総なめにする快挙となり、取組の成果の一端となった。



図2 効果的なICT活用事例

○課題2「地域の活性化」

① 高森町新教育プランの重点施策は「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育・ふるさと教育」とし、地域とともにある学校づくりを推進している。開かれた学校づくりのため積極的にホームページ等を活用した情報公開を行い、学校、家庭、地域において相互に交流、支援等を行うことで学校の活性化、ひいては地域全体の活性化へと発展していく。

また、高森を愛し、高森に誇りを持つ子どもを育てるために、教育課程特例校としてふるさと教育を導入した。社会科の副読本「私たちの高森町」(平成24年制作)や道徳副読本「高森の心」(平成25・26年制作)を作成し、高森の文化や歴史、偉人や名所等を学ぶものである。副読本に併せて電子媒体を作成し、電子黒板やタブレットPCでも活用している。また、地域住民へも各家庭に配布し、改めてふるさとを知る機会となっている。高森を愛し、高森に誇りを持つ人材の育成に努めている。

② 町のICT政策を全ての町民にわかりやすく共有するため、町民の関心と必要性の高い教育分野から推進した。教育施策においてはマスコミ等を活用し、日本全国へ好事例等の情報発信を積極的に行った。様々なメディアから注目を集めることにより、ICTの有効性、必要性等が町民へ広まった。これにより、町のICT政策への理解も深まり、今後の町の政策への推進力となりつつある。

○横展開の可能性及び期待される効果

高森町では、ICT活用における好事例、取組等を積極的に公開している。行政視察やマスコミによる取材、海外からの視察も数多く受入れ、情報発信に努めている。また、各学校のホームページは毎日更新され、1年半で20万件のアクセスを超えるなど注目を集めている。平成26年1月、平成26年12月には小中学校4校合同による研究発表会を開催し、全国各地から約1000名の参加者があった。

また、児童生徒も多くの視察等に見られることで、自尊感情の高まりが見受けられ、高森に誇りを持ち始めている。また、教職員においてもICTにおける先進的な取組、好事例を学ぶことで教員としてのスキルを大きく高めている。今後、教職員の異動の上でキャリアパスにつながる可能性も秘めている。

○今後の方向性

学力向上や、子どもたちの情報活用能力においては結果として現れている。地域においても教育現場への支援、町政策への地域住民の参画など町の取組の大きな推進力となり、町全体の活力へつながりつつある。

今後も国の方針等を注視しつつ、町の最適な状態であるローカル・オプティマムの実現へ向けた取組を継続し、子どもたちがふるさとに誇りを持つ高森町の教育のブランド化を目指していく。

[導入機器等]

電子黒板、実物投影機36台(全普通教室、特別教室)

デジタル教科書

校務支援システム

教務支援システム

タブレットPC240台、校内無線LAN環境構築、ソフトウェア等

タブレットPC120台、ICT周辺機器、ソフトウェア等 企業より無償貸与

iPad35台 企業より寄贈

(問い合わせ先)

熊本県高森町教育委員会 学校教育係

TEL:0967-62-0227 FAX:0967-62-2685

URL:<http://www.town.takamori.kumamoto.jp/>